

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第45週 2025年11月3日（月）～2025年11月9日（日）2025年11月13日作成

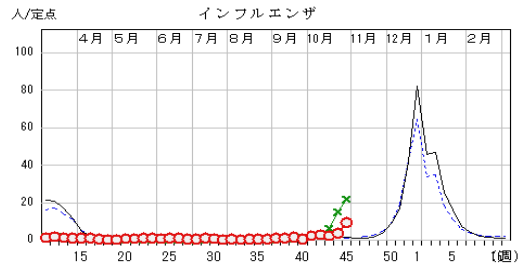
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第45週の報告数は470人で、前週より290人多く、定点当たりの報告数は9.22であった。

年齢別では、10歳未満（238人）、10～19歳（166人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（16.14）、長崎市保健所（15.64）、県央保健所（12.25）、県北保健所（11.67）であった。

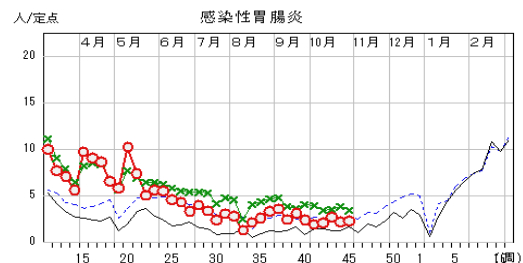


（2）感染性胃腸炎

第45週の報告数は72人で、前週より5人多く、定点当たりの報告数は2.32であった。

年齢別では、2歳（13人）、1歳（10人）、10～14歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（10.00）であった。

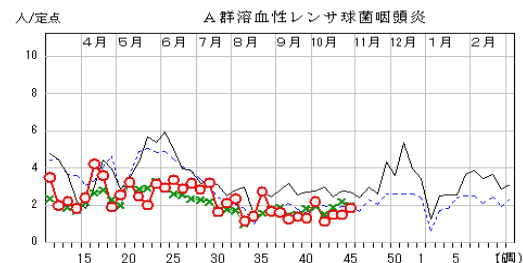


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第45週の報告数は57人で、前週より11人多く、定点当たりの報告数は1.84であった。

年齢別では、10～14歳（15人）、8歳（10人）、5歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（6.00）、佐世保市保健所（3.00）、県北保健所（3.00）であった。



○ 当年（長崎県） 前年（長崎県）
× 当年（全国） 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数に変更されました）

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第45週の報告数は470人で、定点当たりの報告数は9.22となりました。前週より増加し、注意報レベル基準値「10.0」に迫っています。地区別では、佐世保地区（16.14）、長崎地区（15.64）、県央地区（12.25）、県北地区（11.67）は、注意報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、大きな流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第45週の報告数は72人で、定点当たりの報告数は2.32でした。地区別にみると、県北地区（10.00）は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第45週の報告数は57人で、前週より11人多く、定点当たりの報告数は1.84でした。地区別では、県南地区（6.00）、佐世保地区（3.00）、県北地区（3.00）が多くなっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

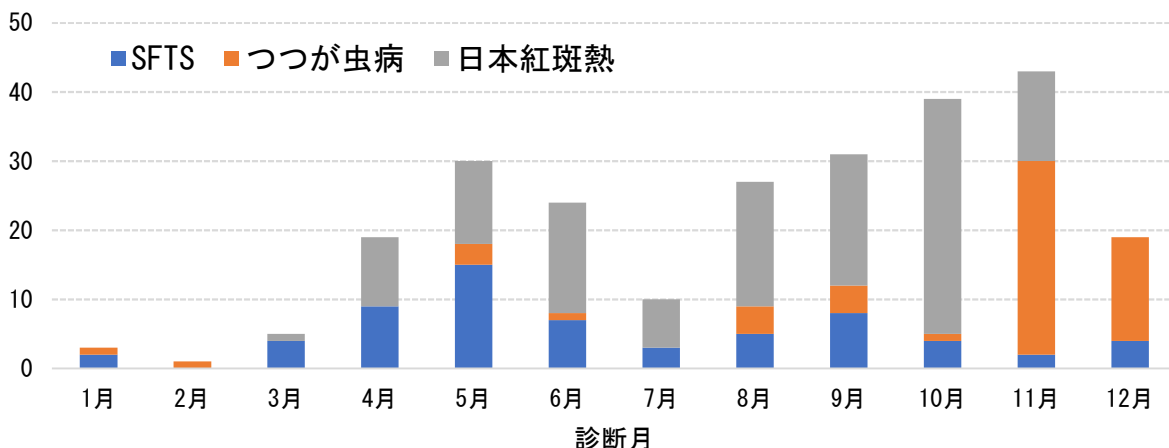
★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第45週までに、SFTS12件、日本紅斑熱24件が報告されています。

過去5年の県内の発生状況をみると、11月につつが虫病的報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

(件) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別患者報告数（2020年～）



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	6 (6)	6 (6)	13 (12)	13 (10)	13 (12)	12
日本紅斑熱	18 (18)	28 (28)	22 (22)	14 (13)	23 (22)	24
つつが虫病	11 (3)	14 (5)	7 (1)	15 (7)	11 (3)	0

※()は第45週までの発生件数

☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう

長崎県の第45週の患者報告数は470人で、定点当たり報告数は「9.22」でした。前週の2.6倍の報告数となり、注意報レベル基準値の「10.0」に迫っています。

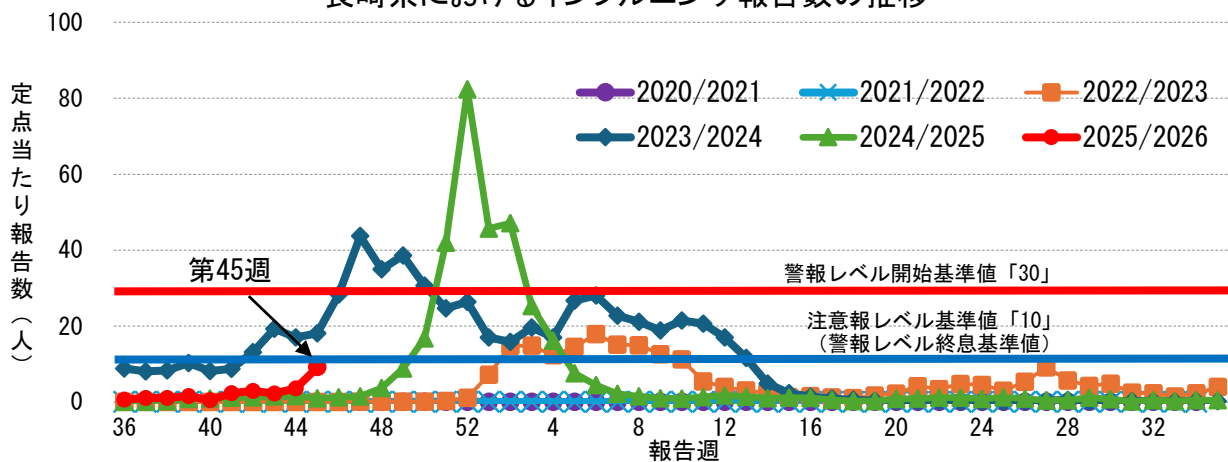
地区別では、ほとんどの地区で前週より増加し、佐世保地区（16.14）、長崎地区（15.64）、県央地区（12.25）、県北地区（11.67）は注意報レベルの報告数となりました。

今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

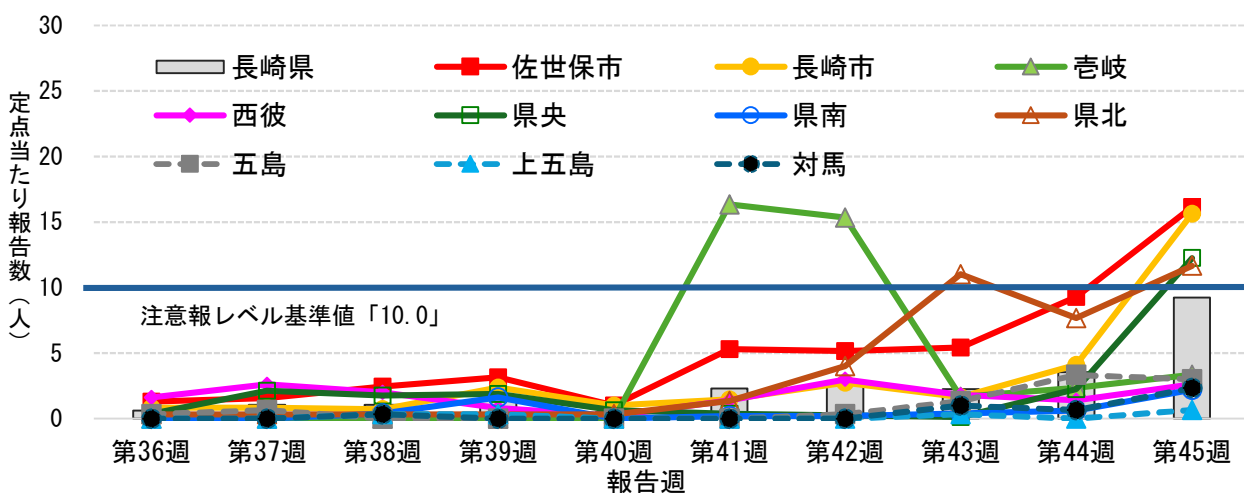
（参考）長崎県感染症情報センター 「インフルエンザ」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansen-c/influenza-kansen-c/685285.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの保健所別定点当たり報告数推移



☆トピックス：11月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です

国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに広げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。

（参考）AMR臨床リファレンスセンター：AMR対策推進月間キャンペーンサイト

<https://amr.jihs.go.jp/information/campaign2025.html>

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名）

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（60代・1名）

4類感染症：日本紅斑熱 患者 女性（80代以上・1名）

レジオネラ症 患者 男性（70代・1名）

5類感染症：百日咳 患者 男性（10歳未満・1名、10代・1名、40代・1名、50代・1名）
女性（10歳未満・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況

(第40～45週、9/29～11/9)

疾患名	定点当たり患者数					
	40週	41週	42週	43週	44週	45週
	9/29～	10/6～	10/13～	10/20～	10/27～	11/3～
インフルエンザ	0.49	2.29	2.86	2.24	3.53	9.22
新型コロナウイルス感染症	7.57	4.92	2.36	1.39	1.16	0.76
RSウイルス感染症	1.35	1.71	1.39	1.35	0.68	0.71
咽頭結膜熱	0.52	0.52	0.35	0.84	0.65	0.48
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.29	2.19	1.13	1.48	1.48	1.84
感染性胃腸炎	2.42	1.94	2.10	2.68	2.16	2.32
水痘	0.23	0.32	0.06	0.10	0.03	0.19
手足口病	0.13	0.10	0.13	0.16	0.23	0.26
伝染性紅斑（リンゴ病）	3.03	3.29	2.81	1.90	2.03	1.58
突発性発しん	0.29	0.32	0.32	0.16	0.39	0.29
ヘルパンギーナ	0.03		0.06		0.03	0.03
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.03	0.03	0.06	0.03	0.03
急性出血性結膜炎			0.13	0.13		
流行性角結膜炎	2.75	3.13	1.63	2.13	2.13	1.00
細菌性髄膜炎	0.08		0.08			
無菌性髄膜炎		0.25	0.08	0.42	0.08	
マイコプラズマ肺炎	0.58	1.33	1.33	1.33	1.42	0.75
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	63.45	64.18	55.04	56.69	68.65	68.35

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況

(第45週、11/3～11/9) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	9.22	16.14	15.64	3.33	2.60	12.25	2.20	11.67	3.00	0.67	2.33
新型コロナウイルス感染症	0.76	0.71	0.55	1.00	0.20	0.88	2.20	1.67	0.33		
RSウイルス感染症	0.71	1.75	0.83		0.33	0.60		2.50	0.50		
咽頭結膜熱	0.48	0.25	0.33		0.33	0.40	0.67	3.00	0.50		
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.84	3.00	1.17		1.33	1.40	6.00	3.00	1.00	0.50	
感染性胃腸炎	2.32	2.25	1.67	2.00	5.33	2.60		10.00			
水痘	0.19	0.75	0.33			0.20					
手足口病	0.26		0.83			0.20				0.50	0.50
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.58	2.50	0.83		2.33	3.40	0.67	2.50	1.50		
突発性発しん	0.29	0.75	0.17		0.33	0.60	0.33				
ヘルパンギーナ	0.03		0.17								
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03		0.17								
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.00		1.00				5.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.75	5.00	0.33	2.00			1.00				
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	68.35	72.71	112.00	42.00	90.40	85.38	30.80	44.33	5.33	28.00	32.33